



## 住民と共に進める人と人との「縁」づくり ～社協が進める支部活動～

姫路市社協では、地域福祉推進計画で「支えあいの福祉コミュニティづくり」を推進目標に定め、人と人がつながり、生き生きと生活ができる地域づくりを目指している。今回は、その取り組みの基盤となる「社協支部」の活動について紹介する。

### 全地区で支え合い活動を展開

市社協では、昭和30年代からおおむね小学校区ごとに、自治会や婦人会、民生委員・児童委員等で構成される「社協支部」の設置を進めてきた。現在、全71地区に支部が組織されている。

特徴的なのは、一人暮らしの高齢者を対象にした「ふれあい食事サービス事業」や、見守りが必要な世帯への「ふれあいネットワーク事業」、就学前の子どもとその保護者が集える場をつくる「子育て支援事業」が支部の基本事業として行われていることである。

その背景には、市社協が小地域における課題の早期発見や支え合いを進めるために、支部の基本事業を定めた要綱を作成するとともに、各支部の小地域福祉活動計画づくりの支援や支部活動記録集の作成、支部長会議での実践報告等を通じ、活動の普及に積極的に取り組んできたことが大きい。



社協支部長会議での活動実践報告

### 全ての住民がつながる場を広げる

平成25年度から、市社協は支部の基本事業に「ふれあいサロン事業」を新たに加えた。

それまでは、主に高齢者や子どもといったように対象別で取り組まれていたが、ふれあいサロン事業は「子どもから高齢者まで、全ての住民」が対象となっている。

市社協の田村昭彦地域福祉課長は、「今、地域では、対象別でなく、全ての住民のつながりが求められている。サロン活動を支えることで、近所の『縁』を生かした見守りや支え合いをさらに進めたい」と語る。

現在、各支部では、サロンの回数を増やしたり、旧幼稚園を活用した拠点づくりを進めている。さらには、支部のメンバーが独自にボランティアを結成し、遠方の人たちのために通いやすい場所でサロンを開催する等、地域の実情に応じた多様な取り組みが広がりつつある。

今年度、市社協ではサロンをテーマにした社協支部ブロック会議を予定するなど、全支部での普及に力を入れている。

今後、支部活動のさらなる充実を通して、地域を基盤に全ての住民を対象とした支え合いの体制づくりに期待したい。



子どもから高齢者までが集うサロン

### 取材を終えて

「地縁組織が弱くなる中で、全ての支部の基盤が崩れずに、地道に活動が続いている。そのことが何よりの強み」と語る田村課長。

このような取り組みの継続こそが、地域の底力になることを実感されている言葉が印象的でした。

### 理事長から 姫路市社会福祉協議会 理事長 飯島 義雄

姫路市社協では、「地域の福祉力を高め、生涯の幸せづくりを約束する福祉コミュニティづくり」を掲げた、地域福祉推進計画を策定し、事業を展開しています。

社協支部活動を始めた顔の見える関係づくり、地域とのつながりづくりは、平時はもちろん、災害が発生した際の住民同士の安否確認や、災害からの復興の際にも大きな力となるものと考えます。

これからも、全ての住民が、地域生活において、孤立・孤独から解消され、生きがいや人との関わりが持てるよう、「縁」をつなぐ地域福祉活動を推進していきます。

